

R5年度 瀬戸内中讃定住自立圏脱炭素促進事業 受賞者の取組概要

大手前丸亀中学・高等学校 広報委員会

「ごみを拾う活動、ごみにしない活動」

市内の人々の環境意識を変え、「過ごしやすいまち」という大きな目標のもと、広報委員会が自ら企画・運営し、ごみ拾い活動のほか、プラスチックごみの環境への影響や現状を伝えることで、使用を低減する取組や、ごみを出さないフードドライブなどの実施を通じて、環境保全と併せてCO2削減の取組を行っている。

<https://www.otemae.ed.jp/schoollife/studentpr/>

フードドライブにご協力ください！！



ビーチクリーンアップ



「環境にやさしい屋根材の開発」

2004年の台風被災状況をきっかけに「自然災害に強く、環境に優しい屋根材の開発」として、「クローザールーフTYPE-D」、年間0.65t程度のCO2の削減が期待できる製品開発に取り組んでいる。併せて屋根材のガルバリウム鋼板には遮熱塗装を施し、ヒートアイランド対策、省エネ対策の観点も含めた取組も実施している。

<http://www.kawakamibankin.co.jp/SDGs/sdgs.html>

住み続けられる街づくりを目指した屋根の開発



CO2の削減・電気を作る/電気を削減する



クローザールーフTYPE-D



こんびらソーラー発電所



まんのう工場



「大規模な自家消費型太陽光発電の導入」

企業理念「独創力」のもと、地球環境や社会課題への対応を経営方針の最重要事項の1つとして捉えており、企業全体の温室効果ガス排出量を2025年までに2013年度比▲30%削減、使用電力の再エネを2025年までに10%以上を目指す中で、省エネ・再エネ設備の導入を推進しており、2023年の取組の1つとして丸亀工場では976kWの太陽光パネルを設置することで、年間493t-CO₂の削減に努めている。

<https://kagaku.shikoku.co.jp>



太陽光発電設備の様子

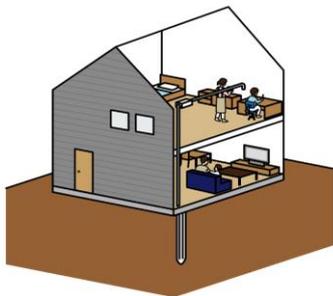
想定	●太陽光容量：976kW
	●予想発電量：910MWh/年 一般的な家庭の約290戸分
	●削減量：493t-CO ₂ /年 年間に呼吸で吐き出すCO ₂ 量の1540人分



「環境経営目標の達成に向けた様々な取組」

建設業を通じて、地域に住まう人が安心して暮らせるよう、環境負荷の軽減や継続的な環境保全活動に取り組むため、自社のCO₂削減等の取組に加え、自然の力を利用した地中熱利用換気システムの提案を行うことで、地球環境に優しい事業の取組を実践している。

<https://www.build-wood.com>



地熱の家

地中熱を利用した
夏涼しく、冬暖かい家

夏は家の中を自動的に循環・換気をしながら日中の蒸し暑さや夜間の寝苦しさを解消。冬は地中熱や生活発生熱を利用し、暖かい空気を循環させて冷えを防ぎます。自然の力を活かした快適な環境をお届けします。

「省エネルギー化および廃プラスチックごみの削減」

四季折々の和菓子を提供する和菓子店にとって、地球温暖化は関心を持たざるを得ない事象であることから、重油ボイラーからガスボイラーへのエネルギー転換を図り、年間2.37t-CO2の削減とともに、プラスチック容器を紙製品へ変更することで、0.2t-CO2の削減に取り組んでいる。

<https://hougetudou.com/sdgs/>

① 循環型社会への貢献

取り組み内容

【廃棄物削減およびリサイクル活動の実施】

- ・ビニール製手提げ袋の有料化
- ・紙ごみは分別して古紙回収業者へ
- ・生ごみは、乾燥させて水分を減らしてから処分
- ・かき氷のカップをパルプ製に、スプーンを木製に

12 つくる責任
つかう責任



14 海の豊かさ
を守ろう



③ 脱炭素社会に向けて

取り組み内容

【店舗における省エネ脱炭素対策】

- ・工場、本社屋電灯のLED化
- ・重油ボイラーをガスボイラーへ切替え
- ・新設の倉庫を木造で建設

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



13 気候変動に
具体的な対策を



まるがめ世話やき隊

「新聞バッグ作りを通じた脱炭素への取組」

2023年に丸亀市ゼロカーボン推進室と協働し、脱炭素社会の実現の取組として「レジ袋の削減」を目的に身近な新聞とノリを材料とした新聞バッグの普及活動を行っている。これまでに2回のワークショップの開催や商店街での「新聞バッグストリート」を開催し、市民、事業者への脱炭素を含めた環境意識の啓発を行っている。



※使用している写真、データ等は各社・市HPより引用